

会報

NO. 41

編集・発行
代 表
総 務 局 長
総務局事務部長
事 務 部

全国美術部門総務局広報室
藤江 充 (愛知教育大学)
山田一美 (東京学芸大学)
佐藤聡史
〒389-0403 長野県東御市御牧原 1794-2
TEL: 090-2560-5998, FAX: 0268-61-6162
E-mail: daibibumon@po15.ueda.ne.jp
URL: <http://saeu.arrow.jp/wiki.cgi>

教員養成 「修士化」構想に思う



総務局長 山田一美 (東京学芸大学)

現在、教員養成の改革動向と絡んで「修士化」が話題となっている。その発信源は、中央教育審議会の「教員の資質能力向上特別部会」である。この部会は2010年6月に設置され、2011年1月末に「審議経過報告」を出し、大震災による中断はあったが5月に再開し、2012年1月までに答申を行うという。ここでの議論の行方は、教職生活全体を通じて、教員の資質・能力の向上を図るための、免許制度・採用・研修を一体的に捉える制度設計にある。検討内容は、① 教員養成の修士化、② 高度な実践的指導力を養う養成の在り方、③ 基礎免許状 (学部相当)、一般免許状 (修士相当)、専門免許状 (博士相当)、④ 社会人の多様な人材登用、⑤ 研修の実施内容・方法の見直し、…等であるが、特に論点は「修士化」と「3種類の免許状」ではないか。この背景には、特別支援教育の充実、外国人児童生徒への対応、学力の向上等、多様化しつつある教育課題と向き合いかつ教科の専門性の高い教員を養成するためには、現在の制度では「もはや限界」だとする認識がある。

「修士化」に関連して、2009年2月、南フランスのIUFM (マルセイユ教員養成大学院) 訪問のことを思い

起こす。訪問時、IUFM は大学改革とカリキュラム改革の最中であった。そこでの教員養成の要は教育実習 (1年間) を含む修士課程の大学院であり、学生は国から学費を支給され国家試験を受けて教員になっていく。この動向は、1999年、29ヶ国がイタリアのボローニャに集まり、2010年までに「統一された大学圏をつくる」ことを謳う欧州の高等教育改革「ボローニャ・プロセス」と関連がある。その宣言によれば、欧州の教員養成が「修士化」で共同歩調をとっている様子が理解される。

現在、日本の教員養成系大学では、教職大学院や6年一貫の教員養成コース設置など、さまざまである。今後、教員養成の「修士化」とどう向き合うのか。全国美術部門の教科内容学検討委員会の研究成果とともに、修士課程の構造とカリキュラムの検討に、美術部門は何をすべきか、課題化しつつあるように思う。その一方で、大震災から4ヵ月。遅々として進まない復旧・復興に心が痛む。まずは、9月に仙台に行き、第50回目を迎える部門協議会のこれからを重ねて展望する機会になればと願っている。

平成 23 年度就任の新役員紹介 (11 名)

- ① 全国美術部門役職名
- ② 氏名
- ③ 任期
- ④ 所属

- ① 副 代 表
- ② 西村俊夫 (にしむら・としお)
- ③ 平成 23-24 年度
- ④ 上越教育大学
- ⑤ 工芸 (木工), 工芸・工作教育



< 地区全国委員 >

- ① 【北海道】地区全国委員
- ② 阿部宏行 (あべ・ひろゆき)
- ③ 平成 23-24 年度
- ④ 北海道教育大学岩見沢校
芸術課程・芸術文化コース
- ⑤ 初等教育 (図画工作), 指導と評価



- ① 【東北】地区全国委員
- ② 降籬 孝 (ふりはた・たかし)
- ③ 平成 23-24 年度
- ④ 山形大学地域教育文化学部
- ⑤ 造形美術教育, 図画工作・美術科教育



- ① 【関東】地区全国委員
- ② 加藤 修 (かとう・おさむ)
- ③ 平成 23-24 年度
- ④ 千葉大学教育学部
- ⑤ 絵画, 地域連携アートプロジェクト



- ① 【北陸】地区全国委員
- ② 宮崎光二 (みやざき・こうじ)
- ③ 平成 23-24 年度
- ④ 福井大学教育地域科学部
美術教育サブコース
- ⑤ 金属造形



- ① 【近畿】地区全国委員
- ② 宇田秀士 (うだ・ひでし)
- ③ 平成 23-24 年度
- ④ 奈良教育大学
- ⑤ 美術科教育学
(題材開発を中心とした授業研究,
近代美術教育実践史研究)



- ① 【四国】地区全国委員
- ② 金子宜正 (かねこ・よしまさ)
- ③ 平成 23 年度
- ④ 高知大学教育学部
- ⑤ 美術教育学



- ① 【四国】地区全国委員
- ② 山田芳明 (やまだ・よしあき)
- ③ 平成 23-24 年度
- ④ 鳴門教育大学
- ⑤ 美術科教育学



- ① 【中国】地区全国委員
- ② 蜂谷昌之 (はちや・まさゆき)
- ③ 平成 23-24 年度
- ④ 広島大学教育学研究科
- ⑤ 美術教育



- ① 【九州】地区全国委員
部門大会運営委員
- ② 富田礼志 (とみた・れいし)
- ③ 平成 23-24 年度
- ④ 大分大学教育福祉科学部
- ⑤ 美術・工作教育, 木工



- ① 監 事
- ② 増田金吾 (ますだ・きんご)
- ③ 平成 23-24 年度
- ④ 東京学芸大学
- ⑤ 美術教育史研究, 児童画研究



平成 23 年度 第 1 回 全国美術部門役員会報告・議事録

日時： 2011 年 6 月 19 日(日) 15:50~16:30
場所： 「東京文化会館」(東京上野) 4 階
中会議室 No. 1, 小会議室 No. 1, 小会議室 No. 2
(〒110-8716 東京都台東区上野公園 5-45)
Tel 03-3828-2111 【代表】

I. 挨拶

- ・開会の辞 (小澤基弘 副代表)
- ・開会挨拶 (藤江 充 代表)

II. 報告・協議

【議題】() 内は提案者。

【拡大】は「拡大理事会にて一括報告・協議する」。

【拡大+部門】は「部門と拡大理事会」の両方で報告・協議する。

※ ただし、副代表及び各種委員長は、拡大理事会に参席し、部門関係の協議に立ち会うこと。

◎ 報告事項

【組織・運営・人事関係】

- (1) H22・H23 年度部門会員・名簿現況 (事務部長)
- (2) H22 年度事業報告 (東京大会を含む) (総務局長)
→ 【拡大】
- (3) H22 年度会計決算・監査 (総務局長) (監事へ依頼)
→ 【拡大】
- (4) 各種委員会報告 (H22 事業, H23 事業・予算計画案提示)
 - ・附属学校委員会 (天形委員長)
 - ・教科内容学検討委員会 (松浦委員長)
 - ・全造連大学委員会 (「美術部門」と「全美協」の連携に関する協定書) → 【拡大】
- (5) H23-24 年度人事計画と引き継ぎ
 - ・運営委員会 (仮称) → 【拡大+部門】
 - ・地区全国委員選出報告 (依頼) (総務局長・全国委員) → 【拡大+部門】
 - ・総務局構成員 (代表) → 【拡大+部門】
 - ・各種委員会 (委員長・各委員)
 - ・H24-25 年度次期代表選考委員会設置・委員案
- (6) 各地区会規程の確認 (総務局長)
- (7) 通信・会報発行, ホームページ (総務局長) → 【拡大】
- (8) その他

◎ 協議事項

- (1) H23 年度部門「宮城大会」(総会・協議会) 日程, 内容・予算等
→ 【拡大+部門】
(立原慶一 大会運営委員)

- (2) H23 年度事業計画・予算 (案) (各種委員会の予算計画案を含む) (総務局長) → 【拡大+部門】
- (3) H23 年度人事案 (報告事項を一括協議) → 【拡大+部門】
- (4) その他

◎ その他

- (1) H24 年度部門協議会 (九州・中国地区) 運営大学日程 (大分大学) → 【拡大】
 - ・開会の辞 (西村副代表)

【拡大理事会での協議事項】

※ 以下の事項は、「拡大理事会にて、学会の協議事項と合わせ一括報告・協議」されたものである。

- (1) H22 年度事業報告・決算, H23 事業計画・予算案:
H22 年度決算, H23 暫定予算案, 宮城大会前日の諸会議 (9 月 23 日部門協議役員会・各種委員会, 9 月 24 日部門総会・協議会) 日程, 3 月予定の第 3 回拡大理事会・部門協議役員会日程, H23 事業計画等が提案された承された。監査報告を含めた決算は、宮城大会前日の拡大理事会で提示する。大会補助費の総額は、財政難から毎年減額しているが、宮城大会では復興支援の立場から、「大会発表概要集」20 万円を含めて 80 万円 (東京大会と同額) を学会・部門予算から補助とすることで了解された。
- (2) H23 年度人事構成:
藤江代表から資料に基づき説明・提案があり、西村俊夫 (新副代表), 地区全国委員ほか, 提案通り承された。
- (3) その他
 - ① 全国美術部門と大学美術教育学会の関係, 入退会の関係: 地区全国委員から質問があり, 歴史的経緯, 現在の入退会手続き・会則, 学会加入のメリット等について, 代表・他から説明があった。
 - ② 平成 24 年度部門協議会全国大会運営:
九州地区の富田運営委員 (大分大学) から開催時期について 11 月を含めて検討する旨の説明があった。

【協議事項】

以下、学会拡大理事会にて一括討議・承認されたため、確認・報告し、部門において再承認を得た。

- ① H22 年度部門「東京大会」報告, H23 年度部門「宮城大会」(総会・協議会) 日程, 内容・予算等
- ② H22 年度事業・決算報告, H23 年度事業計画・予算 (案) (各種委員会の予算計画案を含む)
- ③ H23 年度人事案

(つづき)

【報告事項】

(1) 各種委員会報告

① 附属学校委員会（天形委員長）

天形委員長より、H22-23 委員会委員について報告があった。欠員である「平成 23-24 年度委員」については、今後の課題とする。他に、「平成 22 年度活動報告」を踏まえ、附属学校の現状と課題、存在意義、美術部門としての具体策について報告があった。

② 教科内容学検討委員会（松浦委員長）

H22 年度の自主参加含めた 5 回の委員会開催、東京大会（会場：武蔵野美術大学）でのシンポジウムによる『中間まとめ』、アンケート実施、島根大学・上越教育大学等の先行的取組に関する調査と分析等を行ってきていること。また、大震災後に急遽、グループ責任者会議を開き、H23 年度委員会活動計画の策定、2 グループ化と新たな研究体制の在り方を検討したこと、全国大会（仙台・会場：宮城教育大学）にて教科内容学関係の研究発表を 2 題設け、「報告書」を視野に入れてまとめていく段階であること等が報告された。

③ 全造連大学委員会（「美術部門」と「全美協」の連携に関する協定書）

水島前全美協会会長より、教員養成、美術教育の振興に立場から、「連携に関する協定書」への調印と意義について意見が述べられた。また、藤江代表より、全造連大会との関わりで、小・中・高の美術教員との連携、美術教育の普及について説明があった。

④ 次期代表選考委員会報告

第 1 回委員会が同日（6 月 19 日）開かれ、委員長に西村俊夫氏（上越教育大学）を互選し、12 月をめどに候補者を選考する方針であることが報告された。

(2) その他

「特任教員」について：年会費を継続して納める場合は、美術部門会員としての資格を保持することが確認された。この件については、今後さらに検討・文書化していく方向である。

（文責：総務局長）



次期全国美術部門 代表選考委員会（第 1 回）議事録

1. 日 時 2011 年 6 月 19 日（日）
11：40～12：00（拡大総務局会議後）
2. 場 所 東京文化会館 4 F・応接室 No. 1
3. 出席委員
岩村 伸一（学会副理事長〈正〉）
西村 俊夫（部門副代表〈副〉）
山田 一美（総務局長〈副理事長兼〉）
山口 喜雄（学会総務部長）
新関 伸也（部門総務部長）
※ 陪席 藤江 充（理事長・代表）

4. 内 容

- (1) 理事長・代表 あいさつ
- (2) 選考委員長選出
互選により、西村俊夫・部門副代表（副）が、次期選考委員長として決定した。
- (3) 委員会業務について
 - ・次期理事長
 - ・代表候補者の人選
 - ・選考、受諾交渉、拡大理事会への推挙（任期：H24-25 年度）
- (4) 日程確認（予定）
 - ① 平成 23 年 6 月 19 日
第 1 回選考委員会、拡大理事会報告
 - ② 平成 23 年 9 月 23 日
第 2 回選考委員会、宮城大会前日、候補者推薦（候補者への打診・内諾）
 - ③ 平成 23 年 12 月中
第 3 回選考委員会 候補者の委員会最終決定（総務局構成検討）
 - ④ 平成 24 年 3 月中旬
第 3 回拡大理事会にて選考委員長が報告・承認（H24 人事・引継ぎ）

（文責：総務局長）



平成 23 年度 役員・各種委員会委員氏名一覧

■代表 藤江 充 (愛知教育大学 22-23)

■副代表 (主) 小澤基弘 (埼玉大学 22-23)
(副) 西村俊夫 (上越教育大学 23-24)

■特別委員

橋本光明 (信州大学 22-23 造形芸術教育協議会担当)

■<総務局委員>

総務局長 山田一美 (東京学芸大学 21-22, 23)

部門総務部長 新関伸也 (滋賀大学 21-22, 23)

山口喜雄 (宇都宮大学 20-21, 22-23)

芳賀正之 (静岡大学 20-21, 22-23)

大泉義一 (横浜国立大学 20-21, 22)

内田裕子 (埼玉大学 21-22, 23)

小泉 薫 (お茶の水女子大学附属中学校 21-22, 23)

相田隆司 (東京学芸大学 22-23)

三澤一実 (武蔵野美術大学 20-21, 22-23)

竹内とも子 (千代田区立九段小学校 21-22, 23)

大成哲雄 (聖徳大学 22-23)

<事務部>

部長 佐藤 聡史 (民間 21. 22. 23)

部員 柳澤 愛 (民間 21. 22. 23)

■地区全国委員

I [北海道]

南部正人 (北海道教育大学旭川校 22-23)

阿部宏行 (北海道教育大学岩見沢校 23-24)

[東北]

片野 一 (福島大学 22-23)

降旗 孝 (山形大学 23-24)

II [関東]

渡辺邦夫 (横浜国立大学 22-23)

加藤 修 (千葉大学 23-24)

III [北陸]

木村 仁 (信州大学 22-23)

宮崎光二 (福井大学 23-24)

[東海]

上山 浩 (三重大学 22-23)

竹井 史 (愛知教育大学 22-23-24)

IV [近畿]

加藤可奈衛 (大阪教育大学 22-23)

宇田秀土 (奈良教育大学 23-24)

[四国]

金子直正 (高知大学 23)

山田芳明 (鳴門教育大学 23-24)

V [中国]

河野令二 (山口大学 22-23)

蜂谷昌之 (広島大学 23-24)

[九州]

幸 秀樹 (宮崎大学 22-23)

富田礼志 (大分大学 23-24)

■部門大会運営委員

立原慶一 (宮城教育大学 22-23)

富田礼志 (大分大学 23-24)

■監事

大宮康男 (静岡大学 22-23)

増田金吾 (東京学芸大学 23-24)

■部門各種委員会

(1) 附属学校委員会

<任期2年…校園長経験を有する総務局を除く委員>

委員長 天形 健 (福島大学 22-23)

委員 笠原幸生 (秋田大学 22-23)

登坂秀雄 (静岡大学 22-23)

未定 (〇〇大学 23-24)

未定 (〇〇大学 23-24)

(2) 全国造形教育連盟大学委員会

<任期2年…全造連大会開催地区大学及び近隣地区代表委員>

委員長 藤江 充 (愛知教育大学 22-23)

総務局長 山田一美 (東京学芸大学 22-23)

総務局 小泉 薫 (お茶の水女子大学附属中学校 22-23)

委員 (半数交代)

樋口一成 (愛知教育大学 22-23)

小池研二 (横浜国立大学 22-23)

降旗 孝 (山形大学 22-23)

南部正人 (北海道教育大学旭川校 23-24)

(3) 教科内容学検討委員会 (H23 年度 16 名 (総務局を含む))

※ 任期1年, 再任可。

委員長 松浦 昇 (金沢大学 21. 22. 23)

(Aグループ)

班長: 小澤基弘 (埼玉大学), 喜多村徹雄 (群馬大学)

石上城行 (埼玉大学), 高須賀昌志 (埼玉大学)

石井壽郎 (東京学芸大学), 大泉義一 (横浜国立大学)

相田隆司 (東京学芸大学), 神野真吾 (千葉大学)

(Bグループ)

班長: 渡辺邦夫 (横浜国立大学), 山木朝彦 (鳴門教育大学)

前芝武史 (兵庫教育大学), 渡辺晃一 (福島大学)

古瀬政弘 (東京学芸大学), 前田英伸 (北海道教育大学)

川原崎知洋 (静岡大学), 松浦 昇 (金沢大学)

* * * * *

日本教育大学協会関係委員

◆ 『日本教育大学協会研究年報』 査読候補者
(2名・H23 年度・毎年度)

(H23. 6. 19 現在)

平成22年度 事業報告

平成22年度 決算書

(平成22年4月)

「部門会報・第38号」, 発行H22.3.31,
発送22.4.30(大会予告)

[平成22年度]

- 5月2日(水) 全国美術部門総会ほか
「東京大会案内(第1次)」発送
- 5月22日(土) 第1回教科内容学検討委員会(10名)
[会場: 横浜国立大学]
- 6月 平成21年度会計監査(上野監事・西村監事)
- 6月13日(日) 総務局会・第1回全国美術部門役員会・各種
委員会(第2回教科内容学検討委員会(10名))
[会場: 東京文化会館]
- 6月末~7月初 「部門会報・39号」, 「東京大会案内(第2次)」
発送
- 9月18日(土) 拡大総務局会, 第2回全国美術部門役員会,
各種委員会(全造連大学委員会: 全美協との
合同協議※H20以降, 附属学校委員会, 第3回
教科内容学検討委員会(9名))
[会場: 武蔵野美術大学]
- 9月19日(日) 全国美術部門「東京大会」開催
部門総会, 部門協議会『平成21年度教科内容
学検討委員会のまとめと論点整理』
※学会での関連シンポジウム『教科内容学は
教科の未来を語るのか』, 教科内容学検討
委員会アンケート実施・報告
[会場: 武蔵野美術大学]
- 9月20日(月) 午後, 開催大学引継ぎ
(武蔵野美術大学一宮城教育大学)
- 12月初旬 日本教育大学協会への事業報告(H22.4月-11
月分)
- 12月11日(土) 第4回教科内容学検討委員会(9名)
[会場: 埼玉大学]
- (平成23年)
- 1月28日(金) 日本教育大学協会全国研究部門連絡協議会
[会場: 東京学芸大学本部]
- 1月29日(土) 正副代表会議 [会場: 東京学芸大学]
- 3月15日(火) 東日本大震災により予定諸会議の中止(総務局
会, 第3回全国美術部門役員会, 各種委員会)
- 3月31日(木) 「部門会報・第40号」発行 ※ H23.5.7 発送

<収 入>

	費目	平成22年度 予 算	平成22年度 決 算	増 減
	前年度繰越	37,192	37,192	0
年会費	会費収入	1,020,000	951,000	-69,000
助成金	教大協助成金	80,000	80,000	0
	収入合計	1,137,192	1,068,192	-69,000

<支 出>

	費目	平成22年度 予 算	平成22年度 決 算	増 減
補助金 及び 負担金	全国協議会補助金	600,000	600,000	0
	全造連負担金	10,000	8,000	-2,000
印刷製 本費	部門会報刊行費	50,000	56,491	6,491
	部門通信刊行費	10,000	0	-10,000
	名簿刊行費	0	0	0
	封筒その他印刷費	30,000	12,075	-17,925
運 営 費	委員会費	70,000	94,405	24,405
	委員等経費	50,000	58,200	8,200
	交通費	5,000	0	-5,000
事 務 経 費	支払手数料	5,000	1,680	-3,320
	通信費	0	0	0
	郵送費	50,000	360	-49,640
	事務費	10,000	0	-10,000
	雑費	10,000	0	-10,000
予備費	予備費	87,192	0	-87,192
委託費	事務部業務委託費	150,000	71,000	-79,000
	次年度繰越		165,981	
	合計	1,137,192	1,068,192	

平成23年6月19日拡大理事会
平成23年6月19日部門役員会

平成23年度 事業計画(案)

(平成23年4月) ※ 前年度事業

「部門会報・第40号」, 発行H23.3.31,
 発送H23.5.7 (宮城大会予告)

4月1日 日本教育大学協会への事業報告 (H22.12月
 -H23.3月分), 6月会議室確保

[平成23年度]

6月16日(木) 全国美術部門協議会・総会ほか日程, 「宮城大
 大会案内(第1次)」発送

6月17日(金) H23 論文集『日本教育大学協会研究年報』査読
 候補者推薦

6月 平成22年度会計監査 (西村監事・大宮監事)

6月19日(日) 総務局会・拡大理事会 (役員・委員長出席) ・
 第1回全国美術部門役員会・各種委員会 (教育
 内容学検討委員会, 附属学校委員会, 次期代表
 選考委員会) [会場: 東京文化会館 (中会議室
 No.1, 小会議室No.1, 小会議室No.2, 応接室No.1)]

6月末~7月 「部門会報・41号」, 「宮城大会案内(第2次)」
 発送

9月16日(日) 部門運営委員会 (都内施設, 予定)

9月23日(金) 拡大総務局会・拡大理事会 (役員・委員長出
 席) ・第2回全国美術部門役員会, 各種委員会
 (全造連大学委員会: 全美協との合同協議※H20
 以降, 附属学校委員会, 教科内容学検討委員
 会, 次期代表選考委員会) [会場: 宮城教育
 大学 (仙台市)]

9月24日(土) 全国美術部門「宮城大会」開催
 部門総会, 部門協議会 (教科内容学検討委員会
 まとめ) [会場: 宮城教育大学 (仙台市)]

9月25日(日) 午後, 次期開催大学への引継ぎ
 (宮城教育大学-大分大学)

12月初旬 日本教育大学協会への事業実績報告 (H23.4月
 -12月分)

12月末 「全国美術部門会員名簿」作成・郵送 (※ 隔年版)

(平成24年)

1月27日(金) 日本教育大学協会全国研究部門連絡協議会
 [会場: 東京学芸大学本部]

1月28日(土) 部門運営委員会 [東京学芸大学又は都内施設予定]

3月12日(月) 又は13日(火) [会場: 東京文化会館予定]
 拡大総務局会・拡大理事会 (役員・委員長出
 席) ・第3回全国美術部門役員会, 各種委員会
 (次期代表選考委員会報告)

3月30日(金) 「部門会報・第42号」発行・郵送

(3月末日: 次年度組織・運営に関する執行部・各役員の
 引継ぎをし, 4月以降新組織で運営する)

(4月1日: 日本教育大学協会への事業報告 H23.12月
 -H24.3月分), 6月会議室確保)

平成23年度 予算(案)

<収 入>

	費 目	平成22年度 予 算	平成23年度 予 算	増 減
	前年度繰越	37,192	165,981	128,789
年会費	会 費 収 入	1,020,000	990,000	-30,000 (330名)
助成金	教大協助成金	80,000	80,000	0
	収入合計	1,137,192	1,235,981	98,789

<支 出>

	費 目	平成22年度 予 算	平成23年度 予 算	増 減
補助金 及び 負担金	全国協議会補助金	600,000	300,000	-300,000
	全造連負担金	10,000	8,000	-2,000
印刷 製 本 費	部門会報刊行費	50,000	70,000	20,000
	部門通信刊行費	10,000	10,000	0
	名簿刊行費	0	120,000	120,000
	封筒その他印刷費	30,000	30,000	0
運 営 費	委 員 会 費	70,000	70,000	0
	委員等経費	50,000	100,000	50,000
	交 通 費	5,000	5,000	0
事 務 経 費	支 払 手 数 料	5,000	5,000	0
	通 信 費	0	5,000	5,000
	郵 送 費	50,000	20,000	-30,000
	事 務 費	10,000	5,000	-5,000
	雑 費	10,000	5,000	-5,000
予備費	予 備 費	87,192	382,981	295,789
委託費	事務部業務委託費	150,000	100,000	-50,000
	次年度繰越			
	合 計	1,137,192	1,235,981	

平成23年6月19日拡大理事会

平成23年6月19日部門役員会

教科内容学は新たな段階へ

教科内容学検討委員会委員長 松浦 昇（金沢大学）

平成 22 年度における教科内容学検討委員会は、自主参加含めて 5 回開催しました。この委員会を支えているのは、若手、中堅の先生方です。ある先生は遠方から夜行バスで東京まで往復され、当然のように議論参加のための資料を準備される熱意には感激しました。ブログでも議論は進んでいますが、ブログであまり発言されていない委員の先生方の委員会での発言は、非常に説得力があり、新たな議論の展開を生み出しました。ですから、定例の委員会開催では不十分なので、自主参加の委員会を 2 回開催しています。

平成 22 年度日本教育大学協会全国美術部門協議会（東京大会・会場：武蔵野美術大学）において『平成 21 年度教科内容学検討委員会のまとめと論点整理』として、『中間まとめ』を報告し、会場から意見を求め、美術教育における教科内容学のひとつのイメージを提示できたことは、教科内容学検討委員会の成果といえます。それを受けた形で開催された、第 42 回大学美術教育学会シンポジウムでは、『中間まとめ』について今までにない多様な意見と質問がだされ、議論が盛り上がり、教科内容学への関心の高さを感じました。その後、『中間まとめ』についてのアンケートを、美術部門全会員に実施しました。真摯な意見が多く、委員全員が丁寧にアンケートの回答を確認しました。アンケートの要点のまとめはブログで公開されていますので、ご覧いただければ幸いです。要点のまとめは今後、議論する上で参考にしていくことを確認し、また、意見や質問に回答する必要がある場合、ブログや報告書の中で答えていくことを決めています。

アンケートの中に、ある大学が教科内容学を実践しているという回答がありました。当然、委員長として熟知しておかなければと思ひ、回答をいただいた島根大学の新井先生に会うべく、信州大学から島根大学に転任された藤田先生を通して新井先生に、3 月 8 日お会いすることが出来ました。紙面の関係で、島根大学の取り組みについて紹介できませんが、いずれ、新井先生から教科内容学検討委員会や大学美術教育学会等でご報告いただけるものと確信しています。

平成 23 年 3 月 15 日に開催されるはずだった、平成 22 年度第 3 回日本教育大学協会全国美術部門全国委員会と大学美術教育学会拡大理事会が、東日本大震災のため、急遽中止になりました。委員会としてその場で報告と提案を予定していましたが、それが出来なかったのが、委員会活動の停滞を恐れました。活動を停滞させてはならないとの判断から、緊急に、4 月 7 日、グループの責任者である、小澤先生、渡辺先生、石井先生に集まっていたいただき、3 月の全国美術部門委員会に提案する予定であった平成 23 年度の計画について相談し、了解を得ました。

平成 23 年度における教科内容学検討委員会は、2 つのグループに分け、A グループは、藤江代表の意向を尊重し、関東圏の若手、中堅の先生方で再編成し、精力的に会議を開催し、機動性を高め、アンケートの意見や今までの議論を踏まえてさらに発展させた内容を B グループに提言する、B グループはそれらを精査し、A グループにフィードバックしながら、A グループと共に纏めていくことになりました。A グループは、すでに 4 月、5 月に会合を開いています。

6 月 19 日に開催された教科内容学検討委員会に、上越教育大学の西村先生にも参加いただき上越教育大学での研究報告をいただきました。その議論を深めたかったのですが、A、B 両グループが一同に会するのが初めてということもあって、前半は今年度の活動内容について、特に、今年度の 3 月までに報告書の作成について了承を得ました。後半は、教科内容学の捉え方について議論が白熱しました。しかし、同時に開催されていた全国美術部門委員会に出席するため、その場では、A グループに議論を深めてもらうことで了解を得ました。

全国美術部門委員会において、教科内容学検討委員会の平成 22 年度の活動報告と平成 23 年度予算案を除いた活動計画案は了承されました。また、全国大会（仙台・会場：宮城教育大学）において、委員会として、教科内容学についての研究発表を 2 題、引き受けることになりました。

教科内容学は、島根大学や上越教育大学等において実践段階に入ったといえます。従って教科内容学検討委員会の報告書が、大変重要な意味を持ち、今後、実践に入った大学との連携が模索されるでしょう。

全造連大学委員会報告

「美術部門」と「全美協」との連携に関する協定書調印について

山田 一美 (東京学芸大学)

これまで、年1回の全国大会の前日に、美術部門の全造連大学委員会が開かれてきている。一方、この委員会は「全美協」との合同会議という形式で、美術部門と全美協の交流・連携について検討をすすめてきた。この度、その連携の在り方を具体的に協議していくために、藤江部門代表と水島全美協会長により協定書が交わされたので、以下にその書面を掲載したい。両組織の連携に関わる協議会名称は「全国大学造形美術教育連絡協議会（仮称）」である。

「日本教育大学協会全国美術部門」と「全国大学造形美術教育教員養成協議会」の連携に関する協定書

「日本教育大学協会全国美術部門」と「全国大学造形美術教育教員養成協議会」の両組織は、双方の自主性を尊重しつつ、全国の大学における造形美術教育に関わる教員養成の充実と造形美術教育の振興に寄与するために協力を図るものであり、ここに連携に関する協定を結ぶ。

1. 両組織の連携に関わる協議会の名称を「全国大学造形美術教育連絡協議会（仮称）」とする。

2. 「全国大学造形美術教育連絡協議会」は、全国の大学における造形美術教育に関わる教員養成の充実と造形美術教育の振興に寄与するために、次の活動事業を行う。

- (1) 教員養成等に関する情報交換及び協議
- (2) 「全国大学造形美術教育連絡協議会」に関する運営
- (3) その他、双方が必要と認める事業等に関する協議

3. 前項の活動事業についての実施は、双方の協議を経て定めるものとする。また、双方の組織からの申し出によって、必要に応じて改訂したり、詳細を定めたりすることができる。

4. 協定締結は、当面の期間とする。
この協定は、いずれかの組織から、見直しや解消の申し出がない限り、当面はこのままで継続するものとする。

5. この協定書は、それぞれ2通を作成し、両組織ともに保管する。

2011年3月15日

藤江 充



水島 尚喜



日本教育大学協会全国美術部門代表

全国大学造形美術教育教員養成協議会会長

附属学校委員会

平成23年度報告

附属学校委員長 天形 健 (福島大学)



日時:

平成23年6月19日(日)
14:20 ~ 15:30

場所:

東京文化会館

1. 委員会構成

<任期2年…校園長経験者で構成(総務局員を除く)>

- (1) 平成22年度委員
委員長 天形 健 (福島大学 22-23)
委員 横出正紀 (熊本大学 21-22), 蝦名敦子 (弘前大学 21-22)
等原幸生 (秋田大学 22-23), 登坂秀雄 (静岡大学 22-23)
- (2) 平成23年度委員(案)
委員長 天形 健 (福島大学 22-23)
委員 笠原幸生 (秋田大学 22-23), 登坂秀雄 (静岡大学 22-23)
未定 (大学 23-24), 未定 (大学 23-24)

2. 平成22年度活動報告

- 6月13日: 第1回附属学校委員会(東京文化会館)
- 9月18日: 第2回附属学校委員会(武蔵野美術大学)
- 10月30日: 横浜国立大学「第3回教育デザインフォーラム(1. 附属小の新しい役割)」に参加

(1) 附属学校の現状と課題

- ① 附属学校の教育活動への、大学教員の認識不足
- ② 附属学校と大学の研究方針等の乖離
- ③ 教育実習は附属任せで、大学・学部の責任体制となっていない。
- ④ 附属学校の人件費は、大学・学部の大きな負担となっている。

(2) 附属学校の存在意義

- ① 先導的・実験的な教育研究の拠点校として、国の教育政策の推進に寄与
- ② 地域教育の「モデル校」

(3) 改善の方向性

- ① 附属学校運営協議会等の設置による大学と一体となった学内マネジメント体制の確立
- ② 教育委員会のニーズを反映させる仕組みの構築
- ③ 大学教員と附属学校教員の「研究テーマの共有」, 「共同研究体制の組織化」
- ④ 教員免許更新講習の場としての活用
(「国立大学附属学校の新たな活用方策検討有識者会議報告書」等より)

(4) 美術部門としての具体策(案)

- ① 附属学校教員との研究テーマ等に関する調査と推進
- ② 大学美術教育学会での研究発表の奨励

3. 平成23年度活動内容、重点課題の検討

- (1) 旧現附属学校園長の調査
- (2) 各附属学校園からの課題等、情報収集
- (3) 図画工作・美術科教員の配置実態調査
(附属小学校・附属中学校・附属特別支援学校)
- (4) 大学教員と附属学校園教員の美術教育研究のための連携
- (5) その他

平成23年度 日本教育大学協会全国美術部門協議会(総会)のご案内【最終】

<第50回 大学美術教育学会「宮城大会」のご案内>

1. 日 時： 2011年9月23日(金) 諸会議, 24日(土)・25日(日) 全国大会及び総会協議会
2. 会 場： 宮城教育大学(2号館2F教室)
〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉149 <<http://www.1.miyakyo-u.ac.jp/>>
3. 問い合わせ：
(会場関係) 宮城教育大学 立原慶一 Tel/Fax: 022-214-3449 <tatihara@staff.miyakyo-u.ac.jp>
(会議内容関係) 東京学芸大学 山田一美 Tel/Fax: 042-329-7606 <yamadaka@u-gakugei.ac.jp>
4. 会場アクセス： JR仙台駅西口バスプール9番のりばから、市営バス「宮教大」「宮教大・青葉台」「宮教大・成田山」行き乗車、「宮教大前」下車。<所要時間約20分>

【大会前日の諸会議】2011年9月23日(金)

11:00-11:30	拡大総務局会議 【正副理事長+正副代表+総務局員+事務部員】	会場D (20席)
11:30-12:00	第2回次期理事長・代表選考委員会 (※ 時間延長の際は、その場で調整) 【副理事長+副代表+総務局長+学会総務部長+部門総務部長】	会場D (20席)
	昼食各自	
12:30-13:30	全造連大学委員会【部門】 ※ 全国大学造形美術教育連絡協議会 (年1回の美術部門全造連大学委員と全美協の懇談会)	会場D (20席)
13:30-14:30 ※ 審議延長 (14:50-16:50)は可	国際交流委員会【学会】 ※ 延長の場合、会場Bへ移動	会場A (40席)
	学会誌委員会【学会】	会場B (30席)
	附属学校委員会【部門】 ※ 延長の場合、会場Bへ移動	会場A (40席)
	教科内容学検討委員会【部門】	会場C (20席)
14:40-14:50	受付【学会・部門共通】	(会場Aの入口)
14:50-16:00	拡大理事会【学会+部門(共通審議事項を含む)】	会場A (40席)
16:05-16:50	美術部門協議役員会【部門】	会場A (40席)

【宮城大会第1日目】2011年9月24日(土)

09:30-	部門受付	2号館1F エントランス
10:00-11:00	日本教育大学協会全国美術部門総会・協議会	2号館2F 220教室
	全国大学造形美術教育教員養成協議会総会	2号館2F 221教室
	大学美術教育学会受付	2号館1F エントランス
11:00-11:25	第50回大学美術教育学会全国大会開会式	2号館2F 220教室
11:30-11:57	口頭発表1	2号館2F 221, 223, 224, 226, 227
12:00-13:00	昼休み	
13:00-15:57	口頭発表2~7 (1コマ27分)	2号館2F 221, 223, 224, 226, 227
16:10-17:30	シンポジウム「美術教育、ゼロからの出発」	2号館2F 220教室
18:00-20:00	懇親会	大学内「萩朋会館」

【宮城大会第2日目】2011年9月25日(日)

09:30-	受付	2号館1F エントランス
10:00-11:57	口頭発表8~11	2号館2F 220教室
12:00-13:00	昼休み	2号館2F 221, 223, 224, 226, 227
13:00-13:27	ポスター発表	2号館2F 228教室
13:30-14:27	口頭発表12~13	2号館2F 221, 223, 224, 226, 227
16:40-15:10	大学美術教育学会総会	2号館2F 220教室
15:20-	引き継ぎ(大会運営理事 H23 宮城教育大学・H24 大分大学)	

【注意】 全国大会に関しては、委員会等の「交通費」の支給がありませんので、ご注意ください。

平成 23(2011)年度日本教育大学協会全国美術部門 全国地区会・支部会報告

近畿地区会報告

平成 23(2011)年度の近畿地区会は、6月4日(土)に奈良教育大学 教育実践開発研究センター多目的ホールにて行われた。全7大学から次の会員13名が集まり、13時30分から17時頃まで各校の状況報告と討議を熱心に行った(敬称略)。加藤可奈衛(大教大,地区理事),宇田秀士(奈教大,地区理事),世ノ一善生,大嶋彰,隼瀬大輔(以上滋賀大),石川誠,岩村伸一(以上京教大),鈴木幹雄(神大),初田 隆(兵教育大),永守基樹,寺川剛央(以上和),山岸公基,山根千佳子(奈教大)

自己紹介,会員名簿などの確認の後,各大学から下の事項の報告と質疑応答並びに協議を行った。(1)大学内予算配分の現状と問題点/(2)院生・学部生の在籍状況/(3)学部入試の状況と取り組み/(4)教員採用・就職の状況と試験対策/(5)大学改革などに関する取り組み状況/(6)各大学における県や地域の現場美術教育組織と大学との連携や協力関係の現状(地域の子どもたちとのイベントなども含む)の実施状況

話し合いを進めていくうちに,美術や美術教育を取り巻く状況の根底にある「悪い流れ」が浮かびあがった。上記(3),(4)に関しては,各大学で様々な取り組みが行われているが,必ずしも成果を上げられていない面がある。これは,大学の努力不足はもちろんのこと,小中高の場での魅力的な図工・美術の授業の減少,若い図工・美術教員を育てる研修の場の不足も影響しているという意見が出された。しかし,その全ての始まりは,やはり大学美術教育の拙さにあり,これに対する対応を早急にしていくことが肝要であると認識した。斬新な思い切った手も提案され,次年度での取り組みの紹介が逆に楽しみとなった。

なお平成25(2013)年度は<近畿または四国地区>での全国大会実施運営が予定されており,現在,四国地区理事とも協議しながら開催大学を検討中である。

報告: 宇田秀士(奈良教育大学)



東北地区会報告

期 日: 6月17日(金曜)
会 場: 仙台産業・情報プラザ(通称「アエル」)
参加者: 秋田大学(石井宏一)
弘前大学(蝦名敦子,塚本悦雄)
福島大学(片野 一)
山形大学(降旗 孝)
岩手大学(田中隆充)
宮城教育大学(立原慶一,浅野治志,
虎尾 裕,村上タカシ)

協議題

1) 各大学の学部入試状況について(志願倍率,入試問題等)

平成23年度入試では,各大学共に教員養成(美術)のコース・専攻における倍率の低下が目立った。東北地区もこれまで2倍程度を維持してきたが,今回1倍を下回った大学が2校あった。そうした中,山形大学は4.3倍と高率であったのが注目された。さらに,センター試験点と実技試験の配分,それらの中身(試験時間や用紙の大きさも含む)について各大学の現状が報告された。今後,各大学の個性性を踏まえ,志願者確保のために対処すべきとする方向が確認された。

談話題:

1) 今回の大震災の被害状況と復興支援の取り組み

東北地区各大学の被災状況が報告された。沿岸部にあった宮城教育大学の宿泊施設のみが津波で流されたが,それ以外の大学では,耐震工事が終わっている建物に目立った被害はなかった。復興支援として被災者への住居の提供,医師・教職員・学生ボランティアの遠隔被災地への派遣,義援金の拠出が各大学とも,精力的になされている現状が詳しく語られた。

2) 就職状況

関東・東京地区など県外への就職状況は各大学とも一定のレベルを保っているが,地元東北での就職は教職及び一般就職ともに厳しい状況にある。教職の多くが非常勤採用に留まっている。東北には,県によって地元帰還の制度もあるというメリットを学生に伝えるなどして,打開策として関東・東京地区の採用を目指す方向で指導している。

3) 他大学との合同卒業展覧会について

山形大学の東京サテライトにおいて,山形大学と愛媛大学の今春卒業・修了生による合同作品展が平成23年3月1日(火)~3月6日(日)に実施された旨の報告がなされた。他大学との交流は良い刺激となっており,展覧会の質が向上するという成果が見られた。

4) 第50回大学美術教育学会仙台大会について

会場担当の宮城教育大学を中心に,東北地区の6大学が全面的に協力することを確認した。

議事録: 立原慶一(宮城教育大学),報告: 降旗 孝(山形大学)

九州支部会報告

6月24・25日,みやざきアートセンター(宮崎市)において,九州地区の美術部門研究協議会が開催された。当日は,九州地区8大学より総勢19名の出席者が参集し,宮崎らしい初夏の暑さのもと活発な協議が行われた。冒頭の宮崎大学教育文化学部児玉修学部長の挨拶では,教員養成系大学を取り巻く厳しい状況についてふれながらも,各大学の意思疎通・連携の意義に言及し,本研究協議会の実績と展望を再確認した。協議会においては,各大学の学部・大学院における改組・改変について協議され,新課程の動向や出口の問題(教員採用試験受験率・合格率・採用率)と改組の動向等について意見が交換された。承合事項においては,年々削減される研究費をどのように確保しているのか,また受験生を確保するための具体的な対応策など,各大学のアイデアと実績について報告の後,質疑応答がなされた。最後に平成24-25年度の九州地区代表役員の選出について,さらに次期開催予定の大分大会について確認され盛会のうちに閉会した。

報告: 幸 秀樹(宮崎大学)

中国地区会報告

日時：平成23年6月25日（土）
場所：山口大学教育学部美術教育実習室
出席：岡山大学・大橋 功，橋ヶ谷佳正，山本和史
広島大学・井戸川豊，池田史志，蜂谷昌之
島根大学・高橋正訓，藤田英樹，有田洋子
山口大学・福田隆眞，河野令二，菊屋吉生，吉田貴富，
中野良寿，上原一明
総会にさきがけて，研究発表会を行った。

研究発表題目

- ・「鑑賞教育におけるケータイ端末利用の課題と展望
—C-learningによる鑑賞教材の開発—」大橋 功（岡山大学）
- ・「プロジェクト 雪舟の見た山口」菊屋吉生，中野良寿（山口大学）
- ・「美術教育学の制度的基盤の成立過程 —島根大学・岡山大学の
場合—」有田洋子（島根大学）

総会次第

1. 開会あいさつ
2. 出席者自己紹介
3. 地区理事交代あいさつ
4. 議長選出

協議事項

- (1) 全国委員会・理事会報告
- (2) 平成22年度支部会計報告
- (3) 平成22年度会計監査報告
- (4) 情報交換
 - ・全国理事会の出席について（山口大学）
- (5) 次期中国地区研究集会当番大学あいさつ
- (6) その他
 - ・情報交換
 - ・「とんかちプロジェクト」学校で眠っている木工道具，手道具を収集し，手入れして被災地へ送る活動の開始していることの紹介，報告。

報告：河野令二（山口大学）

関東支部会報告

平成23年7月2日（土）東京学芸大学にて研究協議会を開催した。
出席：東京学芸大学，横浜国立大学，埼玉大学，千葉大学，
茨城大学，宇都宮大学，群馬大学，山梨大学

宮城大会議長団担当に，渡辺邦夫関東支部長が選出された。

各大学近況報告の後，承合事項/1-1. 大震災等非常災害時に於ける対応指示書（マニュアル）等の準備について，1-2. 震災の影響（施設への影響，入学者の辞退者の人数，節電対策等），2-1. 教育実習の附属校と協力校の割合（小・中/配属数）について，2-2. 実習に於ける研究授業への教員担当について，2-3. 各大学の附属学校との連携の取り組み，3. 教科内容学の評価について，4-1. 各大学の美術教育講座の教員定数の見通し，4-2. 大学組織再編の動向，5. 関東地区大学内の全国協議会開催ローテーション，6. 大学美術教育学会と教大協美術部門との関係，7. 実技科目の授業時間，8. 基盤教育（教養教育）・学部小学校教科と専攻専門科目の位置づけ，9-1. 修士課程における教員免許取得プログラム導入の現状および課題，9-2. 教員免許状取得希望の大学院生の状況と大学の対応等，10. 教員採用試験問題から実技試験が無くなった影響や対応，各項目についての報告があり貴重な情報交換を行った。特に大震災の影響から，被害を受けた茨城の状況報告，大震災への対応マニュアル整備の必要性，横国大の大学院改組と新課程創設，学芸大の大規模改組計画等が注目され，会議終了後，懇親会では議題以外の情報や意見交換もあり親交を深めた。

報告：渡辺邦夫（横浜国立大学）

「描くこと」と「書くこと」



副代表 小澤 基弘（埼玉大学）

私が1992年に埼玉大学に講師として赴任した当時，殆どの実技系教科専門の教員は作家であることを第一義としていたと思う。私は博士課程を中退して大学教員になったが，当時は博士号取得は全く前提とされておらず，満期退学してどこかの大学の教員になるということが一般的であった。その後大学のあり方は徐々に変化し，課程博士取得が前提となり，大学院担当のために実技系教員も論文を書かねばならない時勢に移行していく。つまり私は，教育学部の前時代と現時代のはざかみの時期を生きてきたのであり，それ故にそれぞれを客観的に捉えられる立場にあると思っている。

学生時代ある先生からこう言われた。「画家なんて世間には山ほどいる。大学で絵を学ぶことは〈描くこと+α〉だ。描きながら考えて論文にしていきたまえ」と。その先生の作品と著書に感銘を受けていたこともあり，私は素直に従った。絵を学ぶ前に英文学を学んでいたこともあり，論文を書くことに抵抗はなかった。大学教員になってから，描き書くというこの習慣は幸いした。制作をすればするだけ，自分の中で様々な問題が立ち上がり，私はそれを「描くこと」で解決していくと同時に，「書くこと」でも解決しようとした。描くという実体験がある故に，論は常にそこから自然にわき上がる。それが「制作学」と呼ばれる学問分野として成立し得ることを，やがて知った。そして，常に描き書くことによって形成される私自身の制作学が，実は教育の場で役立つことに徐々に気付いていった。論を通して制作を再考することは，他者に伝わる言葉や概念を探り出すことであり，それはそのまま教育の場につながることは明らかである。

全国美術部門の研究組織とも言える大学美術教育学会は，私が大学院時代から今日まで，こうした論を発表する唯一の場であり，特に実技系の教員には他に同じような発表の場がない分，本当に私には役に立っている。自分の論の業績の全てはこの学会において出来上がっていると言える。描くこと，書くこと，そして本学会を中心に発表すること，その循環を通して，今後更に教育系大学で絵を教えることの意味を考えていきたい。

事務局より連絡

事務部長 佐藤聡史

■年会費納入はお済みですか？

平成23年度の年会費を納入されていない方は、
急ぎ納入いただくようお願いいたします。また平成
22年度分が未納になっている方は、本年度会
費とともに納入してください。

なお、平成21年度、22年度が未納で、23年度
分と合算して7月末までに納入をいただけなか
った方は、会則により会員資格を失効させてい
きます。特別な事情等で納入ができなかった方
については、その旨、8月中にご連絡下さい。

■住所や所属、職名などが

変更になった方へ

学会誌、全国大会など郵送物については、毎回
「転居先不明」による戻りが少なからず発生して
います。事務局側での追跡はいたしませんので、
住所が変わった場合は、連絡を入れて下さい。

また今年は名簿発刊年にあたりますので、住所
の他、電話番号や職場、職名などについても変更
となった方は、変更届けをお願いします。

■メールアドレスについて

各種連絡、情報提供などをメールで不定期に配
信しておりますが、こちらもアドレスのエラーが
多数発生しています。メールの登録のない方や、
エラーで戻った方への郵送による案内は業務上
の都合により、行っておりません。

万が一、ご自分のメールアドレスに、事務局か
らの連絡等が一度も届いていない方、もしくは届
かなくなったという方は、現在使用しているアド
レスを事務局までご連絡ください。

<事務局連絡先>

住 所：〒389-0403 長野県東御市御牧原1794-2
T E L： 090-2560-5998, FAX： 0268-61-6162
E-mail： daibibumon@po15.ueda.ne.jp
U R L： <http://saeu.arrow.jp/wiki.cgi>

■日本教育大学協会全国美術部門への入退会 に関する問い合わせは、東京学芸大学 山田 一美 総務局長 までご連絡ください。

<問合せ先>

山田 一美 <yamadaka@u-gakugei.ac.jp>

■名簿刊行にあたり

刊行の準備として、皆様には現在登録している
個人情報の内容確認をいただくために、今後メー
ルでの確認をお願いすることになりますが、あら
かじめご了承下さい。

【総務局広報室】

- ・山田一美（東京学芸大学）：「第41号」担当
- ・内田裕子（埼玉大学）：「第41号」編集担当
- ・大泉義一（横浜国立大学）
- ・小泉 薫（お茶の水女子大学附属中学校）
- ・芳賀正之（静岡大学）